

「地球に我慢させていませんか？」

米沢市立米沢第一中学校 2年 遠藤 萌花

この夏は、今までにない位暑い夏だった。熱中症警報が何度も出され、日中だけでなく夜になっても二十五度を下回らない熱帯夜が何日も続く。カラッと晴れていたと思ったら突然空が真っ黒になり、傘をさしても足りない位のドシヤ振り。天気急変も多かった。九州地方、中国・四国地方では、「線状降水帯」によって同じ場所で激しい雨が三時間を超えて降り続けた。大規模な冠水・浸水被害や河川の氾濫によって避難を余儀なくされた人もいとニュースで報道された。五十年に一度とか、これまで経験したことのない大雨というワードをひんぱんに聞いたような気がする。我が家で購読している新聞に世界で起きている異常気象について載せられていた。欧州では、各地で熱波が発生し、パリでは四十五度を超える日もあったそうだ。北極や南極では海氷面積が最小になった。国土の八十二パーセントが氷に覆われたグリーンランドでは、今年の七月の一月間で約二千億トンの氷が溶けたことが観測されていて、例年の三倍以上になるという。ニュースではそりを引く犬達が海氷の上にとまった水の中を進んでいく姿を流していた。この夏の異常高温は山火事も誘発し大量の二酸化炭素が放出されて温暖化が加速すると言われている。きっと報道はされていない異常気象が世界中にまだまだあるだろう。

こうした地球規模で見られている、異常気象は、地球温暖化が原因と言われている。温暖化を進めてしまう二酸化炭素などの「温室効果ガス」が悪者なんだとずっと思ってきたが、地球の大気について勉強した際、そうではないことが分かった。地球は太陽からの熱が海や陸に届くことで暖められ、地球も宇宙に熱を放出している。地表から熱が逃げすぎないように地球の周りには「温室効果ガス」という保護する壁のようなものがある。もしこの壁がなければ、太陽から届いた熱は全て宇宙に放出され動植物が地球上で生きていくには寒すぎて死んでしまうとされている。つまり、温室効果ガスは生き物が住みやすい環境を作る地球にとってなくてはならない大事なガスということだ。でも、このガスの量が増えすぎると熱が地表にたまってしまふ。それで極端な気温の上昇や気候変動が起きてしまうのだ。自然のバランスを崩しているのは言うまでもなく人間だ。世界の異常気象を取り上げていた新聞の見出しには「人間が変える気候」とあった。私たち人間が引き起こしてしまっている現象なんだと認識しなければいけないと感じた。

産業革命を皮切りに、人は生活を便利にするため様々なものを生み出し発展させてきた。しかし、厄介なおまけもついてきた。石炭や石油などの化石燃料を燃やしてエネルギーを得ると同時に二酸化炭素の排出量増加という問題を引きおこしてきた。日本は二酸化炭素排出量が世界で五番目に多い国だ。二〇一五年に「世界各国で協力して地球温暖化を防止するため温室効果ガスを減らしていきましょう」という約束事、『パリ協定』が成立した。東日本大震災後再生可能エネルギーの導入など温室効果ガス低排出にむけ取り組んでいるが、二年前ある新聞記事にこんなコメントも載せられていた。「日本では安く手に入る石炭を使った火力発電所の建設が四十基以上計画されていること、地球温暖化を進める原因二酸化炭素をたくさん排出する火力発電は問題視され、イギリス

やデンマークでは石炭を使う火力発電を廃止しようとする動きが見られる。しかし日本は世界の流れに逆らっている。」という点だ。それに、太陽光パネル設置など自然エネルギー開発のため、保護しなくてはいけない森林が無駄に破壊されている姿も目にする事があった。少しずつ改善は図られてきただろうが、課題は山積みだ。

私たちは、地球温暖化を防ぐために何ができるだろうか？ 移動手段を車から徒歩や公共交通機関にすることがよく勧められる。また自然とのバランスを大切にしながら使うエネルギーを二酸化炭素を排出しないクリーンなものに代替えていくことや作られた電気をどう使うかに着目し、省エネに努めたり使っていない部屋の電気をこまめに消すこともできる。外出先で涼しさをシェアするイベントに参加してみてもいいだろう。ライフスタイルを見直し暮らしの中で一人一人が行なう省エネの小さな工夫も積み重なれば地球に大きく貢献できると思う。誰かがやってくれるだろうという考えでは悪化する一方だ。

今起きている異常気象や気温の上昇は、地球が「助けて！」と SOS を出している証拠だ。これ以上我慢させるわけにはいかない。その声を敏感にキャッチし、地球温暖化防止のため出来ることから取りくんでいきたい。